

研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18530134  
研究課題名（和文） 金融自由化のもとでの経済成長と景気変動  
研究課題名（英文） Economic growth and business fluctuation under free asset trade  
研究代表者  
小野 善康（ONO YOSHIYASU）  
大阪大学・社会経済研究所・教授  
研究者番号：70130763

研究分野：社会科学  
科研費の分科・細目：経済学・理論経済学  
キーワード：(1)失業 (2)流動性のわな (3)不況 (4)フィリップス曲線 (5)関税  
(6)貿易数量制限 (7)変動相場 (8)国際資産取引

### 1. 研究計画の概要

国際金融取引が自由な経済での合理的経済主体モデルを(1)完全雇用、(2)失業を伴うもの、のそれぞれについて構築し、各国が行う経済政策の国際波及効果を分析する。

(1) 完全雇用を前提に、金融資産移動が自由な動学的国際貿易モデルを構築し、家計の選好、人口、技術水準、課税・補助金政策などのパラメーターの変化や国家間格差が、各国の資本・資産蓄積、生産特化パターン、経済厚生などに与える影響を分析する。

(2) 失業を伴う動学モデルを構築し、各国の関税および数量割り当て政策や国際援助政策が各国の経常収支を通して為替レートに及ぼす影響を分析する。さらに、それが各国製品の国際価格競争力の変化をもたらし、それによって各国の雇用がどのように変化するかについても分析する。

### 2. 研究の進捗状況

(1) 完全雇用の場合については、動学的ヘクシャー・オリーン（HO）・モデルに金融資産の国際取引を導入し、従来のモデルを再構築した。そこでは、家計は外国資産を保有することができるから、国内の実物資本への投資と金融資産の貯蓄の意義が分離する。それにより、投資税か貯蓄税かによって資本蓄積に及ぼす効果が異なることになり、生産パターンに与える効果も大きく異なってくることがわかった。具体的には、投資税は国内の資本蓄積を抑制するが、貯蓄税は多くの場合、資本蓄積を促進する。このことを小国の仮定のもとで明らかにした。

(2) 好況国と不況国との間の資産移転が各国の景気に与える影響について分析した。Ono (1994, 2001)の動学的不況理論を2国2財の国際経済の枠組みに拡張した後、①両国とも好況で失業が存在しない状態、②一方が不況で失業が存在し、他方が好況で完全雇用が成立している状態、(3) 両国ともに失業が存在する状態、のそれぞれが起こる条件を示した。その結果、大きな対外資産の国ほど購買力を使い切れず、需要不足による失業が発生する可能性の高いことがわかった。

次に、そのような国同士での資産の移転が各国の景気に及ぼす影響を分析した。その結果、①完全雇用国からの資産移転は自国の消費を減少させるが、失業国からの移転は自国の雇用に改善して消費を拡大すること、②完全雇用国による資産の受け入れは自国の消費を増やすが、失業国が受け入れれば失業が悪化してかえって消費が減る、という結果が得られた。以上から、失業の国から完全雇用の国への資産移転は、被援助国だけでなく援助国の消費も増やすということがわかった。

さらに、このモデルの枠組みを使って、関税による輸入制限の効果を分析し、それが通貨高を呼んで、かえって国内の競争力を悪化させ、消費を引き下げることが示された。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。  
(理由)当初の予定通り、完全雇用のもとで自由な国際金融資産取引が行われる場合の結論が、取引が制限されることを前提に求めら

れていた従来の結論と大きく異なることが示された。また、不況モデルについても、資産を受け取る国の方が不況に陥りやすく、その場合には消費が減ることなど、完全雇用を前提とした従来の知見と大きく異なる結果が得られた。

#### 4. 今後の研究の推進方策

##### (1) 完全雇用の場合

投資税と貯蓄税が資本蓄積への効果の違いを通して、生産パターンに異なる効果を与えることを示した小国モデルを大国の場合に拡張し、2国モデルの枠組みで同様の結果が得られるか確かめる。

##### (2) 不況の場合

当初目指した結果がおおむね得られているため、そのモデルの基礎部分をさらに固める。具体的には、本研究のこれまでのモデルでは、価格や賃金の調整は一定速度で徐々に行われると仮定していた。今後は、その性質と他の調整メカニズムとの経済の動学に及ぼす影響の違いを探る。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① K. Futagami, A. Kaneko, Y. Ono, A. Shibata, “International Asset Trade, Capital Income Taxation, and Specialization Patterns,” *Journal of Public Economic Theory*, 10, No.5, 743-763, October 2008. 査読有り
- ② “The Effects of New Environment on Foreign Direct Investment in an Oligopolistic Heckscher-Ohlin Model,” in *Contemporary and Emerging Issues in Trade Theory and Policy*, ed. by Sugata Marjit and Eden Yu, Emerald: Bingley, 367-377, 2008. 査読有り
- ③ Y. Ono, “International Transfer under Stagnation,” in *Theory and Practise of Foreign Aid*, ed. by Sajal Lahiri, Elsevier: Amsterdam, 155-171, 2007. 査読有り

[学会発表] (計4件)

[図書] (計2件)

- ① 小野善康『金融 第2版』岩波書店、2009年、214ページ。
- ② 小野善康『不況のメカニズム－ケインズ「一般理論」から新しい「不況動学」へ』中央公論新社、2007年、223ページ。